

千葉県立中央博物館分館海の博物館ニュースレター

いそっぴ通信 No.10

(平成20年度版)

The Newsletter of the Coastal Branch of Natural History Museum and Institute, Chiba

No.10 (1 April 2008-31 March 2009)



千葉県立中央博物館分館 海の博物館

おかげさまで海の博物館開館10周年！

平成21年3月、千葉県立中央博物館分館海の博物館は平成11年3月12日の開館から10周年を迎えることができました。これもひとえに来館者の皆様、行事参加者の皆様、様々な活動にご支援をいただいた皆様のおかげです。職員一同、あらためてお礼申し上げます。

この10年間で、博物館をとりまく状況は大きく変化し、また様々な要望が寄せられてきました。海の博物館では、それらに応えられるように様々な活動を追加してきました。しかし、「本の海の自然に直接触れて学ぶ」を基本方針とした活動は変わらず継続することができ、多くの方々にご利用いただけたことは私たち職員にとっての誇りだと思っています。

今後も博物館を取り巻く厳しい状況は続くものと予想されますが、学術的な貢献を目指した資料収集・調査研究活動によって得られた海の生きものに関する最新の情報を、展示・教育普及活動の中で来館者の皆様にお伝えできるよう、努めていきたいと考えています。

本誌「いそび通信No.10」では、海の博物館の平成20年度の活動の結果をまとめるとともに、この10年間の活動も簡単に振り返ってみたいと思います。この10年間、また平成20年度、海の博物館は十分な活動をなしえたかどうか、本誌でご確認いただき、博物館をより良い方向へと発展させるための、忌憚のないご意見、ご批判をいただけましたら幸いです。

目次

海の博物館開館10周年！	1
展示活動～10年間の歩み～	2
教育普及活動～10年間の歩み～	3
資料収集・調査研究活動～10年間の歩み～	4
平成20年度のトピックス	5
平成20年度収蔵資料展「海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～」	5
平成20年度マリンサイエンスギャラリー	
「東洋のガラパゴスー小笠原諸島の海の生きものー」	6
「うみはくボランテア」始動！	8
「海の紳士録」千葉日報に連載開始！	9
「みんなで工作 海の生きもの」開始！	9
平成20年度の活動記録	10
1. 展示活動	10
2. 教育普及活動	14
3. 資料収集活動	20
4. 調査研究活動	21
5. 事務室から	25

職員から

表紙の解説

左上：道路から見た海の博物館。博物館の紹介写真として様々なところで使われてきました。
右上：展示室「博物館をとりまく自然」コーナー。中央の丸い台は博物館周辺の地形模型です。
左下：中庭にあるツチクジラの全身骨格(ホンモノです！)。1年に1度、清掃します。
右下：上空から見た海の博物館とその周辺。海に近い上に、山に囲まれた自然豊かな環境にあります。

海の博物館開館10周年！

海の博物館は平成11年3月12日に開館し、21年3月に開館10周年を迎えました。この10年間、海の博物館には様々な出来事があり、また活動内容も様々な変化してきました。ここでは10年間で各活動ごとに簡単に振り返ってみたいと思います。

海の博物館10年間の主な出来事

年度	主な出来事
10	開館記念式典（3月11日） 開館（3月12日）
11	各種活動開始 入館者10万人（6月20日）
12	学校連携活動開始 入館者50万人（3月29日）
13	海の体験コーナー開始（6月） 伊豆大島調査開始（8月） 海の生きもの観察ノート刊行開始
14	バックヤードツアー（博物館探検隊）開始 エチゼンクラゲ来襲（秋～冬） ツチクジラ縮小模型完成 収蔵資料展開始（イッカク、1～2月）
15	入館者100万人（7月5日） ロビー案内板新調 再びエチゼンクラゲ来襲（秋～冬）
16	入場料有料化（4月1日） メールマガジン開始 宮城県志津川調査開始（6月）
17	タッチプール開始 勝浦市立郁文小学校との年間連携授業
18	国立科学博物館コラボ・ミュージアム「イルカの集団座礁を科学する」を開催（9～11月）
19	ダイオウイカ受入（5月） 外部評価行われる（8月） 日本海調査開始（9月）
20	「みんなで工作 海の生きもの」開始（4月） 千葉日報連載開始 開館10周年（3月）

思い出の写真集(未公開写真から)



引き渡し直前の展示室内。まだ空の状態です。中央からやや左の黒点(監視カメラ)が右の写真左上方の黒点にあたります。(10年10月)



開館記念式典後の展示室お披露目。開館までにお世話になった方々にご覧いただきました。(11年3月)



開館して最初の行事のフィールドトリップ。海藻を中心に磯の生きものを観察しました。千葉テレビの取材が入りました。(11年4月)



マリンサイエンスギャラリーでは、毎回、開催日前日に地元の方向けに内覧会を行っています。写真は「子育てする魚」。(15年10月)



県立安房博物館の閉館に伴い、同館で飼われていたウミガメを2頭、海の博物館に移送しました。現在飼育室にいます。(20年10月)



21年3月12日から、展示室に入館された方先着2,000組に、10周年のささやかな記念品をお配りしました。(21年3月)

展示活動 ～10年間の歩み～

【常設展示】

常設展示では来館者の皆様に常に新しい展示をご覧いただくというコンセプトから、ユニット展示や季節展示などの定期的な更新、あるときに見られた珍しい生きものなどを短期間展示するトピック展示の実施などを開館時から継続して行っています。また、海の自然に関する映画「マリタイムシネマ」の上映を行ってきました。今後も、少しずつではありますが展示を更新しながら、できるだけ最新の情報をお届けするように努めていきたいと思っています。

【企画展示】

平成11年度から、年1回、研修室を使って1つのテーマについて詳しく紹介する企画展示「マリサイエンスギャラリー」を行っています。また、14年度からは、新たに収集した資料を紹介する収蔵資料展を行うようになりました。また、他機関と連携した企画展示や、地元の方や他機関の協力による写真展なども開催しています。

【体験交流員による体験行事】

11年度から2名の体験交流員(19年度までは体験学習指導員)による展示室の解説「展示室の歩き方」を開始しました。また、13年度からは、展示室の体験カウンターで「海の体験コーナー」を開始し、来館者に気軽に海の生きものにちなんだ工作などを体験してもらえるようになりました。20年度からは、海の体験コーナーのメニューを、時間を延長して、別室でゆっくり行うことのできる「みんなで工作 海の生きもの」を開始しました。

10年間に行われた企画展示

種類	開催年度	題名
マリサイエンスギャラリー	平成11年	貝達の巧みな生活 食生活にみる貝の世界
	平成12年	稚魚の自然誌
	平成13年	クジラを知る
	平成14年	ヤドカリの世界
	平成15年	子育てする魚ー自分の子どもを残すための巧みな工夫ー
	平成16年	～水中に咲く花～イソギンチャクの世界
	平成17年	これもハゼ、これもハゼ ハゼの世界
	平成18年	アサクサノリーノリの自然誌ー
	平成19年	オスメスの不思議ー海の動物の世界からー
	平成20年	東洋のガラバゴスー小笠原諸島の海の生きものー
収蔵資料展	平成14年	イッカクー長い牙を持つクジラー
	平成16年	イッカクー長いキバを持つクジラー
	平成18年	大きい貝・小さい貝
	平成20年	海辺の鳥たち～豊かな房総の海に舞う～
その他	平成18年	国立科学博物館コラボ・ミュージアム in 千葉 イルカの集団座礁を科学するー一宮町におけるカズハゴンドウのマストランディング
	平成19年	千葉県立安房博物館・千葉県立中央博物館分館海の博物館合同巡回企画 くろしおと漁撈文化
	平成20年	大藪健の写真展



10年間の企画展示リーフレット一覧(色が無いのが残念!)

教育普及活動 ～10年間の歩み～

【主催行事】

「本物の海の自然に触れてもらう」ことを目的に、「観察会」と当日申込みのミニ観察会である「フィールドトリップ(平成19年度から「磯・いそ探検隊」の名称を使用)」を数多く実施してきました。特に親子向けの磯の生きものや水中メガネを用いた生きもの観察会は人気でした。

また職員の専門性を活かした海の生きものなどに関する「講座」では、顕微鏡で観察したり、実験をしたりと、なるべく体験的な要素を取り入れています。

その他、来館者からのご要望に応じて、14年度から博物館の裏方をご覧ください「バックヤードツアー(19年度から「博物館探検隊」の名称を使用)」を、17年度からは飼育室で海の生きものに触ってもらう「タッチプール」を開始しました。

【学校連携活動、団体フィールドトリップ】

開館後、折しも学校教育に「総合的な学習の時間」が導入された時期にも重なり、地元を中心とした学校や各種団体から、個別に磯観察などの行事をやってほしい、というご要望が多く寄せられました。そこで、12年度から「学校連携活動」とフィールドトリップに団体枠を設けた「団体フィールドトリップ」を開始しました。以来、年々利用団体が増加し、11年度は年間わずかに7団体だった利用数が、20年度は50以上もの学校・団体にご利用いただくことができました。また利用団体数の増加に伴い、お申込があってもお断りせざるを得ない状況が生まれましたので、学校独自で磯観察を行うことができるように先生方に磯観察をする際の参考となる事項などを学んでもらう「海の環境学習研修会」を12年度以降、毎年実施しています(16年度からは千葉県総合教育センターとの共催)。

【刊行物】

開館当時に作成した「利用のしおり」「概要書」「展示解説書」「自然観察エリアガイドマップ(海の博物館周辺の自然を観察する際の簡単なガイドマップ)」などの他、海の博物館の活動を多くの方に知ってもらうため、本誌「いそっぴ通信」を11年度から年1回発行しています。また12年度には、磯の生きもの観察会を実施するときの諸注意などを記した「磯の生きもの観察会実施マニュアル」を発行、13年度からは、海の生きものを観察する際の参考図書として「海の生きもの観察ノート」を年1冊発行しています。その他、各年度の行事案内、企画展示の展示解説書などを発行しています。なお、「海の生きもの観察ノート」などは海の博物館ホームページからダウンロードできます。

【広報】

企画展示のポスターやリーフレットなどの配布の他、ホームページ、メールマガジン(平成17年度開始)による広報を行っています。また、博物館周辺を中心に、告知看板や横断幕などを設置しています。



「海の生きもの観察ノート」一覧

資料収集・調査研究活動 ～10年間の歩み～

千葉県周辺の海の生きものにもまだまだわかっていないことがたくさんあります。海の博物館の研究員が行っている研究は学術的な貢献となるような内容の濃いものです。海の生きものの標本、画像、映像などの資料を集め、保管するとともに、それを研究することによって、新たな事実が判明し、それが最新の情報として展示や教育普及活動に活かされてきました。

【テーマ】

海の博物館ではこの活動のテーマを「房総半島の海洋生物相とその特徴」と定め、千葉県周辺の海にはどのような生きものがあるか、そしてそれはどのような特徴を持って暮らしているのかを調べています。このテーマを、職員全員が分担して資料収集、研究にあたる「総合分野」と、特に各職員の専門部分をより深く調べていく「詳細分野」の2つに分けて実施してきました。



干潟の調査。ひたすら歩いて採集します！

【資料収蔵点数の変化】

資料は開館準備中から収集し、登録・保管されてきましたが、開館後の本格的な収集活動が開始された13年度末に収蔵点数は計17,712点となり、20年度末には55,568点に増加しました。これらの資料は外部の研究者などにも利用されています。

【タイプ標本の収蔵】

これまでに世の中に知られていない、いわゆる「新種」となる生きものが見つかったとき、それを研究した結果を学術論文にして公表し、人間が知っている生きものの種類のリストに加える作業が必要になります。その際決まり事がいくつもあり、そのひとつに「タイプ標本」と呼ばれる、その生きものを示すための重要な標本を決め、それを博物館などの研究機関に永久に保管する、ということがあります。海の博物館の収蔵庫には、20年度末までに、海の博物館職員やその他の研究者が公表した種のタイプ標本約120点が、大切に保管され、その種を調べる研究者がいた場合、その標本を貸し出すなどの処置がとられています。



液浸収蔵庫にあるタイプ標本の入った棚

【研究成果の報告】

研究の成果は、展示や教育普及活動に活用されますが、その内容は学術的に認められたものでなければ意味がありません。そこで必要となることは、成果を学術論文や学術書として公表することです。この10年間に、海の博物館職員によって、約130編の学術論文等が公表されました。



標本の写真撮影

【外部研究機関等との共同研究など】

海の博物館の研究職員はそれぞれの専門分野で学術的な貢献をしています。そのため、外部の研究機関等から共同研究や生きものの同定依頼などの様々な業務の要請が来ます。これらの中には、海の博物館独自ではとうていできない深海生物の調査などもあり、そこで得られた成果は、展示や教育普及活動にも利用されています。